

自分を伸ばすことができる環境を

多治見北高校に見学に行った生徒が報告にやって来ました。例によって、一人一人に感想や学んだことを語らせました。それぞれに語る言葉は違っていましたが、全体的には、授業に向かう高校生の姿勢や集中力に心を動かされたようでした。「多治見北高校はこのあたりでは優秀だというイメージがあるけど、その高校の先生たちが優れているからだろうか。公立高校の教員は異動があるからね。毎年毎年人が替わるので、優秀な人ばかりが集まっているわけではないよ。」

私はこのように生徒に話しました。だとしたら、多治見北高校が優秀だとされているのはなぜか……それが生徒たちが目の当たりにした、高校生の学習に取り組む姿勢や集中力だと私は思います。つまり、環境ですね。集中できる雰囲気や、高い意識が維持できる刺激が周りにあるということですよ。

このことは多治見北高校に限ったことではありません。土岐商業高校に行くと、部活動や資格検定の取得にひたむきに取り組もうとする雰囲気があります。恵那農業高校に行くと、育てたり研究したり作ったりという創造的な雰囲気があります。高校ごとにそういう環境があるから、それを高校見学会では味わってきてほしいと私は思います。

味わってきいたら、それを自分にあてはめて「冷静に」考えることが大切です。

私はこれまで多くの生徒を多治見北高校に送ってきました。その生徒たちの声からすると、多治見北高校は、周りに惑わされることなく、自分の目指すものを見失うことなく頑張れる生徒にはよい環境だと思います。逆に、周りを気にして自分を見失いがちな生徒にはやや心配な環境だという印象をもっています。（そういう生徒がよく「愚痴レター」をくれました。「がんばっても成績が上がらない……」と。）

いろいろなところから猛者（もさ）たちが集まってくるのが多治見北高校です。中学校のように地元の仲間と和気藹々（わきあいあい）と学ぶというイメージは期待できません。そういう環境の中に飛び込んで、自分の可能性を伸ばすことができる生徒と、伸ばしきれない生徒が必ずいるはずですよ。その見極めが大切です。

短絡的に成績だけで決めたり、評判だけで憧れたりしては危険です。自分を伸ばすことができる環境があるかどうか、それが学校に進むことが、有意義な高校生活につながるのではないのでしょうか。

「鶏口となるも牛後となるなかれ」「鶏（にわとり）かあ」なんて言わないでくださいね。翼があれば、大空を自由に飛べる可能性だってあるのですから。（十月二十七日記）